

修繕完了18、修繕予定8、修繕検討中2

大雪で被災した教育委員会所管施設

市教育委員会はこのほど、大雪による教育委員会所管施設の被害状況リストを作成し、議会に示しました。リストには、被害施設名、被害内容、6月1日現



在の修繕状況が記載されています。

それによると、屋根の破損、軒天の破損、外壁の破損、窓ガラスの破損などの被害が29施設でありました。

このうち、富岡小学校（開放物置の外壁の板のはずれ）、大島中学校（体育館ギャラリーのガラス窓の破損）など18施設で修繕がすでに完了しています。

修繕予定は、浦川原中学校（給食室の換気扇の破損）、柿崎屋内水泳プール（屋根の破損）など8施設です。吉川地区公民館源分館（軒天、側面壁等の破損）、上越科学館（クーリングタワーの外板の亀裂）については修繕に向けて検

討中とのことです。

7日の総括質疑で、私は、「計上された予算が被害全体の中で、どこにどれだけ手当てされることになるのか。この際、昨年12月からの大雪による被害の全体像を明らかにしていただきたい」とのべていました。

9日に行われた市議会文教経済常任委員会審査でも、大雪被害のことが取り上げられ、教育委員会所管施設での被災状況を明らかにするよう求められていました。左の写真は、吉川地区公民館源分館。軒天や側面壁が壊れています。18日に撮影しました。

「市民プラザのエスカレーター修繕、急ぐべき」と訴え

11日に行われた総務常任委員会審査で私は、長期間動いていない市民プラザの上り用エスカレーターの修繕について取り上げました。

同エスカレーターは4月21日の安全点検で「運転を続けると事故につながるおそれがある」と指摘され、その後、動かされていません。市民からはいつか早く修繕してほしいという声があがって

いました。

私は、「関係者からは来年度でないと直す予算が付けられないと聞いた。災害であろうが、老朽化であろうが、あるいは突発的な事故であろうが、こういうものは利用者に迷惑をかけないスピーディな対応が求められる。1年後、半年後に対応するような事例ではない。急いでほしい」と訴えました。

柳沢財務部長は、「利用者に不自由をかけてはならないというのはその通りだ。いま、修繕に向けて手法や経費について詰めている。市民の方々が安全で、安心して使えるように必要な修繕をやっていききたい」と答えました。今後の動きを注視していきたいと思います。



【イチャクソウ】（再掲）ツツジ科の多年草。漢字で「一葉草」と書きます。背丈は10センチ～20センチ。花期は6月から7月。白い花を多いときは10個くらいつきます。今年は早く咲いたのか、一番上の花しか残っていませんでした。花言葉は「恥じらい」。写真は6月18日、吉川区代石地内で撮りました。



住宅リフォーム前期、 抽選もれが何と1197件も

上越市は今年度、コロナ禍により落ち込んだ市内経済を活性化させようと、住宅リフォーム促進事業費を大幅に増額し、1億円（前期7500万円、後期2500万円）の予算で取組を進めています。

ところが、このほど前期の申し込みを締め切ったところ申請が1812件にもなり、抽選の結果、615件は当選となったものの、1197件が抽選もれとなりました。

9月には後期分の申請を受け付けますが、このままいくと、前期同様に抽選が行われ、大勢の人が抽選もれとなる可能性があります。担当の建築住宅課によると、「前期の申請では、抽選もれとなっても工事を進めるといふものが6割あった」とのことです。そうだとすると、前期で抽選もれとなったうちのかなりの数が後期分の申請をすることになります。このまま予算を増額しないと後期分でも大量の抽選もれが出ることは必至です。

関係者からは、「新型コロナでたいへんな苦境にある。希望する人たちを何とか拾い上げてもらいたい」との声が上がっています。

9月議会には思い切って大幅な補正予算を組んでほしいとの声もあがっています。



No.2017 2021.6.27
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら



橋爪法一 検索

春よ来い

第六六四回

救出作戦

一八日の午後、大島区のK建設に行く際、気になっていたことがありました。それは八日前に見たツバメの雛たちが元気でいるかどうかでした。

この雛たちは八日前、K建設事務所脇の車庫の屋根裏にいました。私が見たとき、雛たちは、もう「虫の息」でした。ちよつと見ただけだと、「もう時間の問題だ」と思ってしまったほど衰弱していたのです。おそらく、ツバメの巣が屋根直下にあつたことから、熱中症にかかっていたのだと思います。

この生きるか死ぬかの危機を知ったK建設のカズトさんは、この雛たちの巣の近くに縦三〇センチ、横六〇センチほどの「臨時の巣」を作り、ぶら下げました。同じ屋根裏でも、短いところでは三〇センチ、長いところでは七〇センチほど屋根から離れた位置です。ここに巣を移せば、屋根直下のような高温は避けられるだろうという判断です。

ただ、衰弱した雛たちの姿を見たときは、これまでの屋根直下の巣から「臨時の巣」に移動したとしても、「よほど運が良くないと、生きていけないだろうな」と私は思っていました。

一八日、K建設の事務所への階段を上りました。このとき、正直言うと、私は「臨時の巣」を覗いて見る気にはなりませんでしたが、どういふ結果になっているかを知るのが怖かったです。

それだけに、K建設社長のお連れ合いのY子さんから、「一羽はだめだったけど、あとは元気になったでね」という言葉を聞いたときはホッとしました。

一羽が亡くなったのは残念でしたが、ほぼ全滅だと思っていただけに、私は、「よく生きていたねえ」「おまんちの若手はたいしたもんだ」そう言いながら、階段を下り、「臨時の巣」を見上げました。

巣を見上げた瞬間、びっくりしました

ね。巣の端っこから顔を出していた四羽の雛たちが、信じられないくらい、大きくなっていました。四羽はそろって巣から顔を出し、首をくるくると動かしていました。みんな、親が運んでくるエサを今か今かと待っているところでした。

私は、「こりゃ、すごい。いつの間になんかに大きくなったんだらう。親がいつぱいエサくんたがるでも、それにしてもすごい」と言いました。八日前には、ダウン寸前になっていた雛たちが、見事に元気を回復し、しかも一気に成長したのです。うれしいなんてもんじゃありません。

感心していると、一緒に「臨時の巣」を見上げていたY子さんが、私が知らなかったことを話してくださいました。「屋根のすぐ下だというのもあるでも、最初の巣そのものが小さかったんだね。その巣も移動したんだわ」と。

本来の巣から「臨時の巣」に雛たちを移動させるにあたって、少しでもなじんでもらおうと工夫してあつたというのです。そこまで聞いたなら、じつとしてはいらねえなりました。私は階段のところに上がって、巣の様子を見てみようと思いました。それでも「臨時の巣」の中は見えません。それで車庫の中ほどにあつた脚立を借りて、見せてもらうことにしました。

脚立の最上部まで上がって、「臨時の巣」の近くから中を見せてもらい、なるほどなどと思いました。中には茶色の薄い毛布のようなものが敷かれ、その上には、元の巣のうち、半分くらいが置いてあつたのです。雛たちを少しでも安心させたいというカズトさんの思いがあつたのでしよう。

どうあれ、雛たちはいのちの危機を乗り越り、元気な姿を見せてくれました。これからヘビやカラスなどに襲われないうも限りません。ここまで来たら、無事に巣立つところまで見てみたいです。

「月影の郷」で初めて歌謡祭開催

浦川原区の「月影の郷」で20日、「月影歌謡祭」が行われました。「月影の郷」での初の歌謡祭に上越市内だけでなく、妙高市や柏崎市などから歌好き、踊り好きのみなさんが集まりました。会場は新型コロナ対策がとられていました。

「月影歌謡祭」での歌や踊りに参加したのは60組のみなさん、この日のために頭から靴まで最高におしゃれをし、力を込めて歌い、踊りました。

参加者のなかには安塚、浦川原のレクダンスグループ、宝恵寺のご住職、元寿司職人さん、パーマ屋さんなどがおられました。みなさん、お上手で、楽しそうでした。

私は34番目、妙高市のFさんと「銀座の恋の物語」を歌わせてもらいました。少し高い音で歌い出したら、途中で声が出なくなり、冷や汗をかきました。でも、相方を務めてくださったFさんのおかげで何とか歌い終えました。歌は苦手の私ですが、私も楽しませてもらいました。

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	6月16日(水)	6月23日(水)
上越南消防署	0.047	0.050
上越北消防署	0.043	0.040
新井消防署	0.057	0.050
頸北消防署	0.050	0.053
頸南消防署	0.060	0.060
東頸消防署	0.053	0.053
名立分遣所	0.053	0.057
高士分遣所	0.053	0.053

